

刈谷の発展史と神谷傳兵衛（大野一造著「刈谷が市になる迄の発展史」を軸に作成）2025.2.19

- 877年(元慶元年) 出雲国から狩谷出雲守が家族家臣7家族が虚ろ舟で衣浦に上陸？伝説
- 1409年(応永16年) 紀州熊野神社古文書「熊野檀那職譲状写」に「借屋郷」とあるのが初見
- 1485年(文明17年) 水野氏が元刈谷進出し城を築く(刈谷古城)
- 1533年(天文2年) 水野忠政(家康の祖父)が刈谷城を築城
- 1600年(慶長5年) 水野勝成(家康の従弟)刈谷藩初代藩主となる～城下町へ
- 1823年(文政6年) 三州泉田村に「角屋」が創業される ※角文初代文助(鈴木家四代)
- 1840年(天保11年) 渋沢栄一誕生
- 1856年(安政3年) **神谷松太郎誕生(傳兵衛)** 2月11日松木島村の神谷兵助六男
- 1863年(文久3年) 刈谷藩士松本奎堂、宍戸弥四郎、伊藤三弥が脱藩し天誅組義挙
- 1867年(慶応3年) 豊田佐吉誕生
- 1868年(慶応4年) 刈谷城大手門外の変「三家老斬殺事件」～江戸家老大野信吾刈谷へ
- 1871年(明治4年) 廃藩置県により刈谷藩消滅 士族による「生産義社」設立(大野定・介蔵)
- 1872年(明治5年) 加藤与五郎誕生
- 1873年(明治6年) 神谷傳兵衛 横浜外国人居留地フレンド商会で働き洋酒製造法を修める
- 1880年(明治13年) 神谷傳兵衛 東京浅草区花川戸四番地に「みかはや銘酒店」開業
三河「安城が原」「五ヶ野が原」と言われた地に明治用水開通する。
- 1882年(明治15年) 「生産義社」は失敗し「東洋組」を設立。煉瓦製造に着手
- 1885年(明治18年) 大野一造誕生(大野信吾(定)1884逝去→弟介蔵の長男)※介蔵は定と養子縁組
神谷傳兵衛 輸入葡萄酒に蜂印の商標登録。日本通運会社設置に尽力
- 1887年(明治20年) 「東洋組刈谷就産所」を新たに興し鉄道局から煉瓦の大量受注を得る
のちに「大野煉瓦工場」と改名し煉瓦と瓦製造の規模を拡大する
- 1888年(明治21年) 東海道線刈谷駅誘致「これが刈谷発展の重要な第一要素」
- 1889年(明治22年) 刈谷村は刈谷町に 東海道本線開通(東京～神戸)
- 1895年(明治28年) 神谷傳兵衛、宇都宮三郎と東京芝区に酒類醸造試験所を設ける
- 1903年(明治36年) 神谷傳兵衛 牛久醸造所(シャトーカヤ)、神谷酒造合資会社設立
- 1910年(明治43年) 神谷傳兵衛欧米視察(4月1日～11月5日)
豊田佐吉欧米視察 (5月に渡米視察し傳兵衛の行程と重なる)
- 1912年(明治45年) 神谷傳兵衛 東京花川戸町に「神谷バー」開業
「三河鉄道株式会社」の設立総会が刈谷町の正覚寺で開催
- 1914年(大正3年) 三河鉄道刈谷～大浜(碧南)間が開通し、翌年刈谷～知立延伸
- 1916年(大正5年) 神谷傳兵衛 三河鉄道社長に就任
- 1917年(大正6年) 神谷傳兵衛 東洋遊園地株式会社設立 (三重県鳥羽)
- 1918年(大正7年) 「東洋耐火煉瓦株式会社」設立。刈谷工場長・技師長は大野一造
- 1919年(大正8年) 渋沢栄一が海底電線敷設計画「日米電信(株)設立協議会」で必要性演説
- 1921年(大正10年) 坂本箕山著「神谷傳兵衛」本発刊(非売品) T10.1.1
- 1922年(大正11年) 4月24日 **神谷傳兵衛逝去** (66歳) **大野介蔵逝去** (85歳)

- 1922年(大正11年) 6月25日 大八運送刈谷支店 平岩主任から同志会に10万坪用地情報が入る
- 1923年(大正12年) 「豊田紡織刈谷試験工場」が刈谷の土地10万坪に建設
「刈谷町の為、真に愉快の極みであった」
- 1925年(大正14年) 日本無線電信(株)設立委員長に**渋沢栄一**「対欧州局に碧海郡依佐美村」
神谷傳兵衛の故郷松木島まで三河鉄道開通 駅名「神谷駅」
- 1926年(大正15年) 「(株)豊田自動織機製作所」設立～豊田喜一郎が工場内で自動車製作に取り組み企業化を決め100万坪の用地の相談を受けるが広大なため拳母地内に決まる。その後用地は58万坪とのことから利便性に富む刈谷に変更案を求めるが、戦時下で陸軍省に却下される。「刈谷にとって生涯の不覚なり！」
豊田自動織機製作所建設に伴う用地買収で刈谷町に多大な恩恵を受けたとして豊田利三郎は買収費残額を寄付。亀城小学校講堂と、本館(現郷土資料館)の建設がされた。設計は**大中肇**。同時期に神谷駅設計もしている。
以降、トヨタ発展の基盤となった刈谷町に自動車関連7社が設置されていく。
- 1927年(昭和2年) 依佐美無線鉄塔工事開始 **三河鉄道**小垣江駅から臨時で高須まで敷設
- 1928年(昭和3年) 依佐美送信所無線塔完成～翌4年送信所完成
松木島「神谷駅」鉄筋コンクリート造り貴賓室付きの駅舎が完成 設計は**大中肇**
- 1929年(昭和4年) <世界恐慌>英国プラット社から佐吉の織機の特許の使用依頼があった
- 1930年(昭和5年) **豊田佐吉**逝去(63歳)
- 1931年(昭和6年) **渋沢栄一**逝去(91歳)
- 1936年(昭和11年) 「トヨタ金融(株)」→1956.7.1「豊田通商(株)」 ※**大野一造** 刈谷町長
- 1937年(昭和12年) 「トヨタ自動車工業(株)」設立(豊田)～1982.7.1「トヨタ自動車(株)」
- 1940年(昭和15年) 「豊田製鋼(株)」設立～1945.11 愛知製鋼(株)
- 1941年(昭和16年) 「豊田工機(株)」設立～刈谷工機～豊田工機～2006.1.1(株)ジェテクト
- 1943年(昭和18年) 「東海飛行機(株)」設立(刈谷) 1949 愛知工業→1965 (株)アイシン
- 1945年(昭和20年) 「トヨタ車体工業(株)」→刈谷車体→1953.1.1「トヨタ車体(株)」
- 1949年(昭和24年) 「日本電装(株)」設立～現在の(株)デンソー
- 1950年(昭和25年) 4月1日 刈谷市制施行(1951 一周年記念「刈谷音頭」「刈谷小唄」誕生)
- 1967年(昭和42年) **大野一造**逝去(81歳) 長男耐一はトヨタ生産方式(TPS)を確立した
- 2017年(平成29年) **斎藤吾朗**画伯「神谷傳兵衛さんに乾杯！」制作展覧
- 2018年(平成30年) **味岡源太郎**氏著、**大橋純也**氏編集 復刻本「神谷傳兵衛」発刊
- 2020年(令和2年) 10月7日「神谷傳兵衛勉強会」～「傳兵衛クラブ刈谷」立上げ
- 2022年(令和4年) 神谷傳兵衛没後100年記念事業展開 西尾～刈谷～三河をつなごう

地方創生…Civic Pride(市民の誇り) City Pride(まちの誇り) Regional Pride(郷土の誇り)

郷土に生き、郷土を誇り、郷土を愛することです。

刈谷藩最後の家老 大野(信吾)定が大野介蔵に後事を託したときの要旨(明治17年)

「刈谷を理解し、刈谷を愛し、刈谷の為に働いて貰いたい。刈谷発展の為に努力せしめよ」
(シリーズ藩物語「刈谷藩」2016 舟久保藍著 p201 から)